

## 1 教職員による学校運営評価

### 1) 評価表

評価のカテゴリーは9領域（48項目）です。各項目は、「5；できている～1；できていない」の5段階で評価しました。

### 2) 全体の結果

I～IXのカテゴリー別平均の推移は図1の通りです。平均の高い順にみると「Ⅲ入学・卒業対策」（4.58）、「Ⅳ学生生活への支援」（4.58）、「Ⅷ広報」（4.57）、「Ⅰ学校経営」（4.56）、「Ⅴ管理運営・財政」（4.48）、「Ⅱ教育課程・教育活動」（4.43）、「Ⅶ教職員の育成」（4.38）、「Ⅸ地域との連携」（4.36）の順で、一番低いカテゴリーは、「Ⅵ施設設備」（4.07）でした。すべてのカテゴリーで4以上となり、特に「Ⅸ地域との連携」（4.36）は、0.48上昇しました。

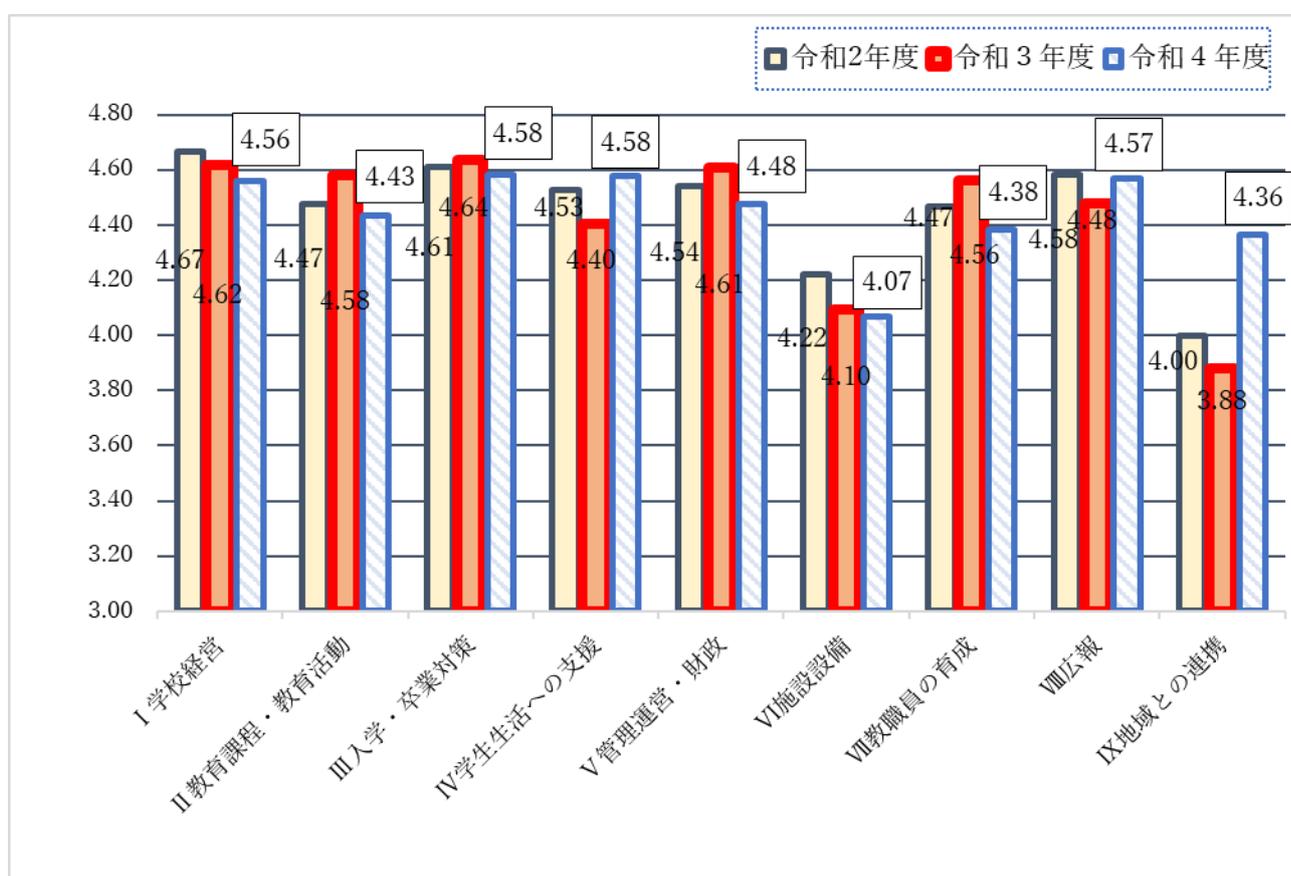


図1 カテゴリー別平均

### 3) 令和4年度入学生より改正カリキュラム（教育課程）による教育開始

地域と連携し地域から学ぶ授業や、実践的な学びをする基礎看護技術の授業が本格的に始まりました。学生は地域にフィールドワークに出かけたり、看護実習室で技術練習をしたり、グループワークで活発にディスカッションしたりと、考える力や多職種と連携する力を身につけ、保健・医療・福祉システムの中で活躍できる看護師をめざして学習しています。電子テキストを導入し、シミュレーションモデルを活用するなど、より実践的な授業を行っています。

### 4) 地域と連携した授業やボランティア活動

新カリキュラムでは、学生が地域にフィールドワークに出かけたり、地域のいろいろな施設の方

に学校で授業をしていただいたりするなど、地域の実情から学ぶ、地域に入り込む授業や臨地実習、地域の資源を活用した学びを取り入れています。具体的には、「いわき市の暮らし」の授業では、いわき市 10 地区の区長さんや民生委員さんを中心に、1 年生の地区踏査にご協力いただきました。

ボランティア活動について、令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症によりほとんどが活動中止となりましたが、令和 4 年度は学校としてボランティア団体に登録して授業の一環としてボランティア活動に参加しました。登録による依頼だけでなく、授業活動のつながりを通して地域の方から直接ボランティア依頼がある時もあり、また学生自治会がサンシャインマラソンボランティアに参加するなど、ボランティア活動を通して地域との関わりがより深まりました。

#### 5) 感染症対策の徹底と感染状況による柔軟な対応

新型コロナウイルス感染症対策については、いわき市医療センター感染管理室にご助言いただき、随時感染対策を見直し、感染症予防や拡大防止対策を徹底しました。看護学生として、市民の一人として、毎日の体調及び行動の確認、感染対策に取り組んでいます。

入学式、看護宣誓式、卒業式は規模を縮小しての開催でしたが、大切な節目となりました。文化祭は 3 年生のみの校内発表でしたが、保護者の方にも研究発表をご覧いただきました。学校生活の様子は随時フェイスブックで発信しました。感染状況により、自宅でオンライン授業を受講する、臨地実習を学内で行うなど対応し、1 年間学びを継続することができました。

#### 6) 社会人基礎力を高める学生支援

学年担当教員による定期的な面接に加えて、スクールカウンセラーの活用、学生間交流グループ活動による学年間交流、文化祭の企画・開催など、教員全員で学生生活の支援や学習支援に取り組みました。

国家試験合格率は 97% で全国平均を上回っています。臨地実習は一部学内で実施した時期もありましたが、ほぼ予定通りに実施でき、患者さんや臨床指導者より多くの学びをいただきました。3 年生の学習支援では、学生個々の学習状況を分析し、指導に生かしました。日々の授業や計画的な低学年からの模擬試験の実施、臨床の実習指導者と連携した実習指導、国家試験に向けての学習支援体制を整える等の支援を継続しています。

また、学生が主体的に課題に取り組む授業や、学生自身が外部の方と調整して行なう授業などもあり、状況を考えながら対応する力を養っています。今後も「つながる力」などチームで協働する力を身につけられるよう支援していきます。

#### 7) 教職員の育成

福島県看護学校協議会が主催する学外短期教育研修に 2 名が参加し、領域横断別科目の実践を学びました。また、本校の「いわき市の暮らし」等に関する研修で、白河高等看護学院、ポラリス保健看護学院からそれぞれ 1 名が来校しました。また、看護教員養成研修の講師や教育実習に協力し、福島県看護教員養成講習会 3 名、人間総合科学大学 2 名の計 5 名が本校で教育実習を行いました。

##### 【学会発表】

- 1) 手戸邦江 加藤順子 緒方仁美：患者サポートセンター実習の学習内容が入院中の看護の視点へ与える影響,第 53 回日本看護学会学術集会,2022 年.
- 2) 緒方仁美 黒田史彦 手戸邦江：小児看護学実習でリフレクションを通して得られた学生の気づき,第 53 回日本看護学会学術集会,2022 年.

## 2 学校生活に対する卒業時アンケート

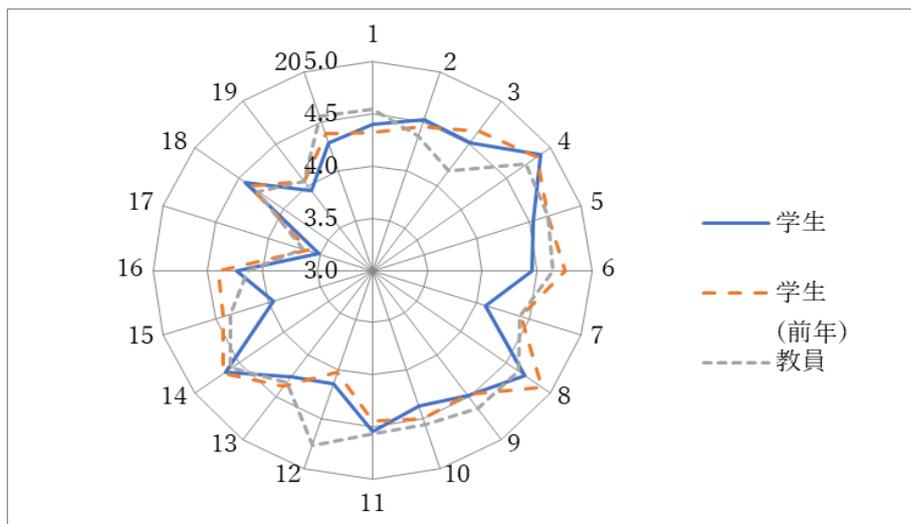


図2 学校生活に関するアンケート—教職員の学校運営評価との対比— ※項目内容は最後尾に記載

評価のカテゴリーは6領域（全項目 20 項目）です。20 項目の平均は 4.3（令和 2 年度 4.8、3 年度 4.4）でした。前年度と比較するとほぼ同程度の得点であり、3 年間の学校生活に対する満足度は 4.0 以上で高いと考えます。平均が最も低かった項目は、VI 施設設備の「バリアフリー構造」3.5 で、施設構造は学校生活には支障のない状態となっていますが、バリアフリーの捉え方の相違が評価を低くしていると考えます。次に低かった項目は、V 管理運営・財政の「学校運営に学生の意見の反映」VI 施設設備の「休息、親睦及び交流を行うスペース」で共に 3.9 でした。「学校運営に学生の意見の反映」は、自治会との話し合いを通し、学校としてできるところは前向きに取り組んでいくことを伝えていきたいと思えます。「交流スペース」は、コロナ禍による感染対策のため、密を避け、パーティションを活用するなど、様々な工夫をして交流をはかってきましたが、まだまだ自由が制限されていることも影響していると思われます。

今年度は、「ボランティア活動」についての評価が若干上昇しました。新カリキュラムの学生はボランティア登録を行い、1、2 年生を中心にボランティア活動を積極的に取り組んでいます。また広報活動として、広報紙「あぜりあ」を創刊し、学校の PR にも努めました。

\*図2「学校生活に関するアンケート」の設問内容については下記をご参照下さい。

(Ⅱ～Ⅷは、アンケート項目に対応する学校運営評価のカテゴリーを表す)

## Ⅱ 教育課程・教育活動に関する項目

- 1 学生便覧に記載されているシラバス(授業内容)は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致している。
- 2 授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善している。
- 3 実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制が整っている。
- 4 実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施している。
- 5 実習において、学生が関係したインシデント(ヒヤリ・ハット体験、事故報告)等を把握・分析しているとともに、改善策を講じている。
- 6 授業改善に努める目的で、学生による授業評価(講義・臨地実習)を実施している。
- 7 学生指導において、学生に対して人権への配慮がされている。

## Ⅲ 入学・卒業対策に関する項目

- 8 国試対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど教職員一丸となって取り組んでいる。
- 9 学生の進路決定率を高めるよう努めている。

## Ⅳ 学生生活への支援に関する項目

- 10 学生の心身面での健康管理体制が整っている。
- 11 学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分応じている。
- 12 学生がボランティアなどの社会活動へ積極的に参加できるよう努めている。
- 13 教育・学習活動に関する情報提供を保護者等に行い、支援を得ることにつながっている。

## Ⅴ 管理運営・財政に関する項目

- 14 災害など非常時の危機管理体制が整っている。
- 15 学校運営などに学生の意見が反映されている。

## Ⅵ 施設設備に関する項目

- 16 校舎を定期的に点検し、適正な整備を行っている。
- 17 校舎はバリアフリーに配慮された構造になっている。
- 18 教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されている。
- 19 学生のために、休息、親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられている。

## Ⅷ 広報に関する項目

- 20 看護師養成所としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。